

保小連携ニュース

保幼小連携研修会を開催しました

日時：平成24年8月27日(月) 13:30~16:00

会場：舞鶴市商工観光センター 展示交流室

講師：鳴門教育大学大学院 教授 木下光二氏



保育所、幼稚園、小学校の関係者が一堂に

8月27日に舞鶴市商工観光センターにおいて、小学校教育研究会生活科部との合同で、「保幼小連携研修会」を開催しました。保育所、幼稚園、小学校の関係者65人が一堂に会し、保幼小連携事業について学び合いました。

参加者内訳	保育所関係者	41人
	小学校関係者	15人
	幼稚園関係者	9人

研修会次第

1. 由良川小学校の取組から 由良川小学校 教諭 佐藤 美智子 氏
2. 各校・各園の実態交流紹介 岡田保育園、中保育所、余内小学校、中筋小学校、新舞鶴小学校
3. 講師 鳴門教育大学大学院教授 木下 光二 氏 指導・助言
4. 公開授業事前研究会
平成24年10月29日(月) 由良川小学校と八雲保育園の保小連携による公開授業・保育について、授業者からの説明と研究協議
5. 講師 鳴門教育大学大学院教授 木下 光二 氏 指導・助言

保育園・幼稚園から小学校へつなげたいこと『夢中になって遊びこめる力』

～水・砂・風・土・泥・葉に夢中になる力が、教科の学習に夢中になる力とつながっている～

木下教授の指導・助言から(抜粋)

- ◎保育要録を送付し小学校へつないでいるが、充実した育ちの接続のために保育所から働きかけて小学校へと連携をとって進めていることは、全国的にもめずらしく、舞鶴の取り組みは素敵である。ますます深めていってほしい。
- ◎保幼から小へ何をつなげてほしいか ということについて、「生活習慣」とか「名前が書ける」「ひらがなが書ける」「人の話が聞ける」などいろいろあげられると思うが、「夢中になって遊びこめる力」をつなげてほしい。水・砂・風・土・泥・葉に夢中になる力が、教科の学習に夢中になる力と繋がっている。“連携”の前にそれぞれ(保幼と小)が充実していることが前提であり、それがあわさってさらに充実していってほしい。「遊ぶ」「学ぶ」だけでなく「遊びこむ」「学びこむ」活動を。
- ◎先日のロンドンオリンピックでハンマー投げ銅メダルの室伏氏の言葉に「年齢とともに筋力が衰え、できないことが多くなってくるが、自分は嘆くことはしない。できることを増やしていき、それを楽しんでいる。」というのがあり、“保小の接続”に通じるものがある。条件はいろいろあり難しく思えるが、何ができるかを考え、できることから始めることが大切。

- ◎小:「どのように育ってきたのか」
小学校にいと保幼での育ちが見えない。年一回でも保幼をのぞいて、実感・情報交換を保幼:「どのように育っていくのか」
小学校以降の育ちも見ると。送り出した子がどう育っていくのか。
まず一歩踏み出し、共有することが大切。保幼と小とは違うから学び合える。違うことを学び合う。それがスタートをなめらかにすること
- ◎連携のメリット
保幼:学校のイメージが持てる
小:関わる力が育つ(幼児が入ると児童は活動が大変になるが、学びも多くなる)。関係が作れるかどうかがよくわかる。幼児と関われる子は教科とも関われる。(行間が読める。考える力がつく。)
- ◎複数の保幼からきている学校は、「やろう」と言ってくれる園とすればよい。クラスごとで連携する園や活動が違ってもよい。「人とかかわる力、活動を楽しむこと」を中心に置く。
- ◎無理なく継続的に楽しめるものを考えるとよい。失敗しても修正・改善していけばよい。担任等がかかわっても継続できるよう「教育活動」に位置づけ、カリキュラム化が必要。



講師:木下 光二 氏
 国立大学法人
 鳴門教育大学大学院教授

公立小学校の教諭、鳴門教育大附属小学校の教諭・教頭から同幼稚園の教諭へと転身。保幼小連携に関する文部科学省の委員等も務める。

幼稚園と小学校両方を経験されている教授ならではの、両者の違いに驚いたエピソードなどを交えつつ、それぞれが抱える悩みに対していろいろとご助言いただきました。

つながりと共育～子どもたちの笑顔と豊かな学びを求めて～

由良川小学校 教諭 佐藤 美智子 氏

佐藤先生からは、2年目を迎えた由良川小学校と八雲保育園のつながり活動について紹介いただきました。

1学期つながり活動

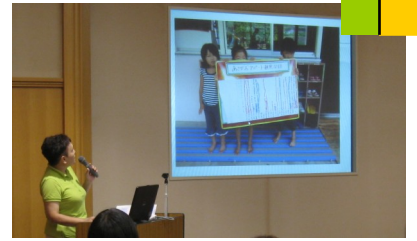
6/ 1 あさがおの種まき 6/15 学校探検
6/28 ザリガニつり準備 7/10 ザリガニつり
8/10 保小連携校内研

2年目の取り組み

- ①昨年度の年間計画や活動プランを生かす
→見直す
子どもにわくわく・どきどき感があつたか
子どもの探究心は育まれていたか
- ②記録を取り事後の分析に生かす
- ③保護者に保小連携について発信する
- ④全職員に説明・協力依頼する機会を計画的に持つ

6/15学校探検 木下教授指導・助言からとても質の高い交流活動であったが、課題をあげるとしたら、

- ①人のかかわりに目がいきすぎて、対象とのかかわりやこだわりが薄れてしまわなかったか。
 - ②両方が主役にならないといけない。ねらいをすり合わせたため、1年生にとってハードルが低くなってしまった。
 - ③生活科のねらいを達成できることが第一そこに幼児が関わることで、その過程が濃くなっていく。幼児がいるからより深く広くねらいが達成されていくこと。
- つながりを経験した子どもの姿から**
- ・「かえるのお墓」の事例より
 - ・生活科大好き、つながり活動大好きな子ども 活動意欲の高まり 伝え方の引き出しを持つ 生活科の授業が変わる
 - ・きょうだいとつながる中で、育つ感情や感覚



昨年度、年長児として保小連携を体験した子が1年生となり、その違いを感じたと話される佐藤先生。

つかまえてきたおたまじゃくしのえさがわからないと、自分たちが図書室や学級文庫で調べたり、本に載っていないことは理科の得意な校長先生に聞きに行ったり。

保育園の子どもたちとつながり活動をする際にも、あさがおについて説明するのに、自分たちから「紙芝居にしよう!」と提案したり。

好奇心いっぱい主体的に考え、調べ、行動し、人やものに関わる、そして表現の引き出しをたくさん持った子どもたち。毎日たくさん発見をしている姿が目には浮かびます。

各校・各園の実態交流紹介

環境も状況も異なる各園・各校の発表は、保幼小連携を模索する参加者に身近に感じられるものがあり、大変参考になりました。

岡田保育園(2年目、岡田小学校と連携)



地域のコミュニティとして、茶摘み、運動会、マラソン大会など色々な学年と交流連携をしている。音楽・体育・生活(食育)等で、できる事、やりたい事を選び、接続連携保育授業を実施している。

今年度は、保育の中で数量に関する活動を、特に意識してとらえ、記録等をとっている。

中保育所(2年目、中舞鶴小学校と連携)

中地域には保幼小中連絡会があり連携しやすい環境にはあるが、改めて育ちや学びの接続について考え合っていけたらと思っている。しかしあまり負担感なく進めていければとも思っている。

余内小学校(初年度)

今年初めて、校区内の幼稚園・保育園と交流する予定にしている。学校の取り組みに、園児をどのように参加させていくことが望ましいか悩んでいる。

中筋小学校(未実施)

大規模校で、多数の幼稚園、保育園から入学してくるため、どのように交流していけばよいか分からない。各園の取り組みが分からない状態で交流の生かし方が難しい。

新舞鶴小学校(2年目、東保育所・昭光保育園・やまもも保育園と連携)

昨年度より1園と交流をはじめ、今年度は3園と交流している。年数回なので間があいてしまい、つながり難しい。また反省会の時間設定が難しい。



やってみなくちゃ 始まらない ～研修会参加者の感想から～

- ◎複数の幼保から入学してくることが壁と感じていたが、交流活動にさほど関係がないことがわかり、よかった。
- ◎まず教師が意識をもつことがはじめの一步だと感じました。
- ◎記録をとり事後の分析に生かすという大切さを感じました。
- ◎“夢中になる力をつなげる”という木下先生の言葉が心に残りました。「もっとやりたい!」という言葉が子どもたちの中からたくさん出てくるように活動を考えていきたい。
- ◎現在連携していないが、身近なところで取り組みされていることがわかり、勉強になりました。いろんなつながり展開できると感じました。

- ◎具体的に取り組みを話していただき、次からの実践に結び付けていけそうです。
- ◎出来ないことを嘆くのではなく、できることから楽しんでもらう! 全ての保育、教育、そして人生につながると共感しました。
- ◎保育園・幼稚園がどのような活動をして小学校にあがってきているか、ほとんど知らないなので、お互いに足を運ぶ機会が必要だと思った。
- ◎つながり学習の内容は、これだけしか考えられない…のではなく、これもできるのではないかと考えたり、失敗を避けようとするのではなく、失敗もあり! と大きな気持ちでかまえて、色々な可能性を考えていきたいです。



- ◎不安がらずに私たちが楽しもう! という気持ちで取り組んでみようと思いました。やってみなくては始まらない。
- ◎モデル園以外の連携を進める橋わたしの様なことをしていただける事業があるとうれしい。(見学会など…)
- ◎いろいろな園の取り組みが聞け、参考になりました。